

もつと清水が好きになる。

しみの風

2022

1

No.579



新春
座談会

50年の歩みと
これからの未来に向けて

ゼロスタート農業
～新規就農者の挑戦～

60かげきまで50周年

50th
ANNIVERSARY

特集



50年の歩みと これからの未来に向けて



JAしみずは1972年10月1日、旧清水市内9農協が合併して発足しました。以来、組合員をはじめ関係各位の結集により、合併50周年という歴史的節目の年を今年迎えます。今月は、青壮年部と女性部の両部長をお迎えし、これまでの50年を振り返るとともに、これからの未来を語り合っていました。



生け花:池坊 水野靖子先生の作品

青壮年部長 望月 崇弘さん

1985年生まれ。第47回JALしみず青壮年部通常総会にて部長に着任。青島温州を主力に、柑橘類を栽培する。農産物を使ったスイーツ作りが趣味。

代表理事組合長 柴田 篤郎

1954年生まれ。1999年JALしみず監事、2002年理事、2008年代表理事専務を歴任し、2011年から代表理事組合長。柑橘類の栽培も行っている。

女性部長 小澤 節子さん

第48回JALしみず女性部通常総会にて部長に着任。茶を中心に野菜類を栽培。父・邦芳さん、夫・正嗣さんの3人で「茶手もみ興津流」を地域に伝承している。

柴田 あけましておめでとうござい
ます。まず、コロナ禍により活動が制
限される中、女性部、青壮年部の皆さ
んは新しいアイデアを出し合いなが
ら、少しでも前に進もうと活動され
ています。前向きな姿勢にはいつも
刺激を受けています。ありがとうございます。

JAしみずの原動力とは

柴田 JAは「農協があって良かつ
た」といわれる農協を確立するため
に、組合員とともに歩んできました。
農業・農協を取り巻く状況は決して
平たんな道ではありませんでした。
数々の試練を乗り越えられた原
動力は、清水という地域にある「共同
して困難を乗り越えていこう」とい
う風土だと思います。この気持ちに
JAしみずは支えられてきました。
ミカンの厳しい時期だった196
0年代には、県西部を中心に遠方で
の出作経営をしました。清水には平
らな畑が少ないとなると、行政と連
携してJAを主体とした基盤整備事
業をスタートさせました。
「山を平らにしたい」といっても、
一つの地区を完成させるのに、多い



作業性の良い平たんな園地が広がる畑総新丹谷地区。

ときは200人前後の土地所有者の同意が必要となります。大変な事です。皆が同じ方向を向き、共同で難局を乗り越えようという発想は、地域に宿る報徳思想「一人は万人のために、万人は一人のために」も大きく関係していると思っています。

望月 報徳思想については祖父からもよく聞いていました。出作の話や、原の畑総(眞宮畑地帯総合整備事業)ができた時も、何を栽培しようかと地権者皆で相談して「やっぱりミカンだろう」となったことなど、こうして



報徳思想を説いた二宮尊徳の像(庵原支店)

た一つひとつの決め事が、清水の農業の礎になってきたのだろうと思っています。

僕は、幼少の頃の遊び場が畑総でした。「ミカン農家になりたい」と思って育ち、祖父から教えてもらいました。当たり前前に畑総がある環境でしたが、これがなければ、農家をやっていかなかったかもしれないですね。

小澤 原動力の中には、先代の培ってきた技術を伝承していかなければ、という思いもあったのではないかと思います。女性部活動では地域の食の伝承もそうです。

私はお茶の手もみ保存会もやっていますが、震災による風評被害など、大変なこともありました。しかし、皆で守ってきたものを繋げていく。大変な時期の事も含めて、後世に伝えたいと思っています。



女性部・青壮年部の思い

柴田 今日(の)農業を担う青壮年部と、私たちの生活を支える女性部は、1973年(昭和48年)4月に発足しました。JA組織の両輪である青壮年部と女性部、それぞれの立場でお話していただきます。

望月 青壮年部には20代前半で入部し、15年くらい経ちます。先輩には弟のように可愛がってもらいました。同世代でない方も知り合うことで、農業の技術的な面や人間の幅も広がってきたと思います。これからは、僕たちが後世に清水の農業を伝えて

いきたいと思っています。

柴田 部員になる事で、多くの人と話ができるのは良いことだと思えます。青壮年部にいると、消防団や地域の自治会などの役も頼まれることが多くなりますが、そこからまた人脈が広がる。地域との絆も深まり、さらには地域を支えていく事にもつながっていくのだと思っています。

小澤 私たちが伝えていきたいと思う気持ちや地域への貢献活動は、女性部や地域の活動の中で自然と身に付いたもの。青壮年部もそうだと思いますが、活動の中で多くの人と話ができるのは、刺激になりますね。

望月 「人脈は金ともいいますよね。

これはお互いの情報交換にも役立つ
ますが、地域を守る意識にもつな
がっていると思います。コロナ禍で
活動がしにくくなっていますが、続
けていく事が大事だなと思っていま
す。例えば青壮年部の発表大会も出
場をやめるのは楽だけど、改めて始
める時のエネルギーは、とても大変
だから、続けることにしました。

柴田 過去には、バレーボール大会
やソフトボール大会なんかもありま
した。何年かやらなくなると「なくて
もいいわ」になってしまいますね。

小澤 女性部も同じ。やめるのは楽
だけど、続ける事は大切ですね。でも
こうしたイベントを続けるには、J
A担当者のサポートがとても大事。
それによって皆も参加しやすくなる
んです。いつもかゆいところに手が
届くサポートはとてもありがたく、
女性部活動を大事にしていきたい
いるのがひしひしと伝わってきます。
望月 青壮年部も同じく、担当者が
いなかったらとても無理。本当に感
謝しています。また、部員に限らず、
農家はJAからの情報が力。営農指
導もそうですが、例えばコロナによ
り新設された補助金の情報など、迅
速に全農家へ周知してもらえるとあ
りがたいですね。



地域農業と社会に貢献 SDGsと重なる活動

柴田 当JAは2019年に「SDGs宣言」をし、持続可能な農業・農協活動を主体としたさまざまな活動を展開しています。SDGsにつながる活動やこれからの展開方法などについては、いかがですか。

小澤 女性部では昨年、講演会でSDGsを勉強し、知識を得た後に浜の清掃を行う予定でした。

部員の連携を深めるためのイベントとして恒例となっている運動会では、かかしを運ぶ競技を企画して、部員にはかかしの制作をお願いしていたんです。しかし、どちらも中止。せめてかかしだけでもと思い、コンテストを開きました。

望月 青壮年部では、持続可能な農業を目指し「清水の農業は俺たちが守る」をモットーにさまざまな活動をしています。昨年は大規模な農産物盗難被害があり、警察と連携した盗難パトロールを始めました。

また、山と畑の間に来る鳥獣の被害を防ぐため、矢部の畑総を電気柵で囲うなど、2年前から緩衝帯整備



後を絶たない農産物の盗難被害を防ぐため、青壮年部は清水署と連携してパトロールを実施。



女性部は各支部が趣向を凝らしたかかしを制作。運動会に替わってコンテストを開き、親ほくを深めた。

協同の力を次の50年へ

事業を始めました。この整備は山を安全に保ち、自分たちだけでなく、地域のためにもなります。いずれも事前の準備や調整など、JAの担当は本当に大変だったと思います。

柴田 そんなふうには思っていました。聞いてみると、女性部、青壮年部がこれまで当たり前に取り組んできた活動は、すでにSDGsにつながっている事がわかりますね。

JAでは、「持続可能な農業を目指す」という目標のもと、各事業を行っておりますが、SDGsの活動として2019年から「しみずみらい応援団」プロジェクトを開始しました。今年度までの3年間で寄付金は1000万円を超えます。あしなが育英会への寄付は日本だけでなく、世界の奨学生への支援でもあり、世界規模でのサポートになっています。

SDGsの「誰一人取り残さない」というテーマは「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の原点、報徳思想にも通じます。SDGsという言葉が生まれる前から、ずっとこの思いは脈々とつながれてきているのだと思います。

望月 温故知新という言葉がありすが、過去の活動を見直し、例えば親ほくを深めるために野球大会を開くとか、コロナ禍で途切れた交流を復活させる一手になる事ができたらと期待しています。

先輩たちが持続可能な農業を目指して50年という長い歴史を積み上げてきた結果、今の時代に僕たちが立っている。協同の力を再認識し、一致団結して盛り上げていきたいと思っています。

小澤 農家の若手女性で構成する「フレッシュミズ」を再び立ち上げたいと考えています。既存の部員の意見に新しい発想も加え、いろんなことをやっていけたら良いですね。こうしたグループの中で、多くの人と話ができるのは財産だと思います。特に若い人に女性部へ興味を持ってほしい。部員はいつも募集していますので、ぜひ声を掛けてください。

柴田 時代の変遷の中で、取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。収益構造や働き方も変わりました。この「時代の変化についていけているのか？」と、不安になることがあります。



しみずみらい応援団の団長を務めるのは、清水出身の落語家・春風亭昇太郎師匠。プロジェクトで集まった寄付金は、毎年あしなが育英会へ贈っています。

ます。次年度は、JAの古い体質や無駄・ムラの改善を目的とし、IT推進部署を設けます。

経費の節減、事業の発展を目指し、JAの本質である「組合員のためのJA」、「顔の見える、小回りの利くJA」を目指し、次の50年も、清水農協が清水農協らしくありたいと思っています。

50年を振り返ってみると、多くの先人や組合員、JA役員など皆さんの尽力のおかげだと改めて感じました。感謝申し上げます。



ゼロスタート農業

～ 新規就農者の挑戦 ～

農業の担い手の高齢化と後継者不足が全国的に大きな課題となっていますが、静岡市内では、毎年約20人が新規に農業を始めています。新規就農者の約半数が農家以外の出身者（農業未経験者）です。ゼロから農業を始めるには栽培技術や経営ノウハウなど超えなければいけない壁が多くあります。

今号の特集は新規就農者と研修を支えた受け入れ農家を紹介します。

農業経営を始めるにはさまざまな知識や準備が必要です。JAでは、農業を始めたい人に作物の紹介や農業体験の斡旋、研修先の紹介など幅広い支援を行っています。また、県中部農林事務所や農林環境専門職大学などでも体験・見学などを支援しています。

就農希望者は「がんばる新農業人支援事業」「農の雇用事業」など行政の事業を活用し、指導農家の元で研修を進め、JAや行政、地元農家や地域の人々などさまざまなサポートを受け就農を目指します。

新規就農者といってもさまざまな場合がありますが、大きく次の3つに分けられます。

- ① **新規自営農業就農者**
家族経営体の世帯員でほかの仕事から自営農業への従事が主になった人
- ② **新規雇用就農者**
法人等に雇用されることにより、農業に従事することとなった人
- ③ **新規参入者**
土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営人。

今回は、清水区で就農した新規参入者3人の農業にかける思いを紹介します。



渡邊 遼平さん
清水区 日本平地区
わたなべ りょうへい

1985年9月生まれ(36才)
経営:清水区清水地域で青島温州と
早生温州の栽培を行っている。

家

族との時間を優先 農業の道へ

農業を始める前は神奈川県で会社員をしていました。デスクワークが主で仕事に時間をとられ、なかなか家族と過ごせないことが悩みでした。もともと体を動かすことが好きで何か良い仕事はないかと考え「農業をやってみよう、大好きなミカンで生活しよう」と志しました。

実家の東京に近く、ミカンの一大産地である静岡に興味を持ち、県中部農林事務所に相談すると、JAしみず組合員相談課を通じて清水でミカン栽培をしている

井上博一さんを紹介してもらいました。

■ベテラン農家の下で研修

2019年7月頃から1年半の間、井上さんの農園に通い、ミカン栽培の研修を受けました。研修中は草刈りやせん定、消毒散布から収穫まで、丁寧に教えてもらいました。

雨の日も晴れの日も、日曜日以外は井上さんの園地に出て農作業をしていました。大変なこともありましたが、自分が育てたミカンが売れたときは本当にうれしかったですね。

研修期間中に農地を探した結果、JAや地域の方々の協力もあって、無事に確

保できました。認定新規就農者への申請も行い就農することができました。
井上さんにはミカンの栽培技術だけでなくさまざまなことを学び、今では人の師匠ですね。本当に出会えて良かったと思っています。今後は栽培面積を広げて収入を上げることが一番の目標です。現在植えている苗木が大きく育つのを楽しみにしています。



研修受入農家

井上 博一さん
いのうえ ひろいち

清水区日本平地区

1951年10月生まれ(70才)
経営:清水区清水地域で
青島温州やはるみ、早生温州を
栽培している。

■地域農業を長く続けていく ためにできること

サラリーマンから農業を始めることは、資金も畑もゼロからのスタートだから

「覚悟を持って農業に向き合ってほしい」と研修前から話していました。農業の厳しい面も研修中に体験しておく必要があると思います。渡邊さんのような新規就農者が農業で生活できるという実績が残れば、後に続く人も出てくると思うんです。渡邊さんには後に続く新規就農者のモデルケースになってほしいですね。
農業は生涯現役という考え方もありませんが、現実的ではありません。早いうちから後継者をしっかり育てて、自分は余生を楽しむという形ができれば、地域農業は長続きすると思うんです。渡邊さんの活躍に期待しています。



ミカンに未来を託す渡邊さんと井上さん



水野 順也さん
みずの じゅんや
清水区
三保地区

1977年11月生まれ(44才)
経営:清水区三保地区で中玉トマト
レッドオーレを主力にトマト栽培を行っている。

川

村農園カフェに
憧れ、農業の道へ

出身は広島県ですが、大学時代は静岡市で過ごしました。大学卒業後、ミカンの共選場やサクラエビ漁などの仕事に関わってきました。妻の実家が清水区だったこともあり住むことを決めたところ、三保がトマト産地だということを知りました。

友人を通じて川村さんが経営する川村農園カフェに出会い、農業に魅力を感じました。県中部農林事務所などの手助けもあって、川村さんの指導を受けることになりました。

■ トマトの成長に合わせて研修

川村さんのトマトハウスで1年間ト

マト栽培のノウハウを学びました。トマトは播種から収穫までが約1年かかります。ちょうど研修期間と同じになるため、一連の流れやノウハウを学ぶことができました。単調な作業も多いですが、重要な栽培管理については重点的に指導してもらいました。

研修しながら農地とハウスを探し、川村さんの協力も得て、就農することができました。

研修期間だけでは分からないことも多く、独立した後も川村さんに聞きに行ったりして師弟関係が続いていますね。週に一度、土曜日に開店する「nongerカフェ」を妻と一緒にやっています。トマトのジャムなどの加工品を販売しながら「川村農園カフェ」みたいに入が集まる場所を目指し頑張っています。

収入を増やすことも目標の一つですが、やっぱり川村さんみたいになりたいですね。人との出会いを大切にしながら農業をしている姿を見て、人と接することの素晴らしさを学びました。
将来はお店をやりながら農地の規模も大きくしていったらいいな、自分がやっていることが何かの形で後に残ればいいなと思っています。



研修受入農家

川村 研史さん
かわむら けんじ

清水区駒越・三保地区

1975年9月生まれ(46才)
経営:清水区三保・駒越地区で
トマト、エダマメの栽培のほか
カフェも経営している。

■ 人とのつながりを広げる農業

新規で農業を始めるというのは生活のベースが全くない状態なので、受け入れることに責任を感じていました。しか

し、水野さんはさまざまな仕事の経験があり、農業以外の視点を持っているので安心していただくところもありました。
新しい人が農業に就いてくれたら、さまざまな人たちにも「良い刺激になる」と研修を始めた当初から思っていました。研修中は農業全般について実際の作業を行いながら指導しましたが、農業は1年で覚えられるものではありません。しかし研修を何年も続けるわけにはいかないし、一人でやってみなくては分からないことも多いんですよ。
新規就農者には、固定観念に縛られないやり方を模索してほしいです。農業は一人で続けるのは難しいので、新規就農者も含めた仲間づくりをしていきたいと思っています。



人の集まる農業を目指す水野さんと川村さん



静岡 岡市初の「がんばる新農業人支援事業」の研修生

前職は浜松の農業生産法人でブロッコリーやトウモロコシなどを露地で栽培していました。そのときから独立して農業をやってみようという思いがあったので、地元静岡岡市に戻り「がんばる新農業人支援事業」を活用してエダマメの新規就農者募集に申し込みました。そこで、齋藤恭市さんを紹介してもらい研修を受けました。

■ハウス全体を任せられ研修

エダマメは播種から2カ月ほどで収穫時期を迎えます。1年間で3〜4回収穫できるので、他の作物より回数を重ねて学ぶことができるのが良かったので

すね。齋藤さんからハウスをまるごと任せてもらって、耕すところから収穫まで行いました。ただ、エダマメは荷造り作業に時間がかかるので、作業場にいることが多かったです。

研修期間中に農地や施設を探して、齋藤さんやJ.A、駒越地区の人たちの協力もあって農地を見つけて就農することができました。研修中は道具もハウスもすべてが揃っていたけれど、一人立ちすると農地も道具も足りないものが多く苦労しました。

齋藤さんからは農機具の機械操作から圃場全体の管理など、今でも色々なことを学んでいます。エダマメ以外の作物にも齋藤さんと一緒にチャレンジしているんですよ。将来的には人を雇用できる規模の栽培面積の確保を実現したい



清水区
駒越地区

川口 洋平 さん
かわぐち ようへい

1983年7月生まれ(38才)

経営:清水区駒越地区でエダマメの栽培を行っている。

です。そのために栽培技術の向上などさまざまなことに挑戦して大きな目標に向かっていきたいと思っています。



研修受入農家

齋藤 恭市 さん
さいとう きょういち

清水区駒越地区

1958年12月生まれ(64才)

経営:清水区駒越地区でエダマメ、トマト、畑ワサビなどを栽培している。

■新規就農者へ包括的な支援を

エダマメはハウスごとに播種する時期をずらすことで1年間を通して栽培が可能な作物ですが、安定した収入を得るには多くの農地を必要とします。研修の1年間で試行錯誤できる回数が他の作物より多いのは良い部分だけど、就農してから利益を上げるには、農地確保とハウスを建てる初期費用もかかって大変なんです。

荒廃農地が全国的に問題になっていますが、荒れた農地になる前に、農業をやめる人たちから農業を新たに始める人たちへ、上手にバトンタッチできる仕組み作りをJ.Aや行政に期待しています。これからの時代は、一つの作物にこだわらず色々なことに地域一丸となって挑戦していったらいいですね、若い人たちが活躍できるようになってほしいですね。



新しいことにも挑戦を続ける川口さんと齋藤さん

各地域の活動やイベントなど、
さまざまな話題を紹介します。



▲ 完成を祝って鐘を鳴らす西ヶ谷理事長

新丹谷土地改良区

「夢をかなえる鐘」の完成を祝う

新丹谷土地改良区は11月1日、畑総「新丹谷地区」でモニュメント「夢をかなえる鐘」の完成式を行いました。鐘は、海岸線を一望できる高台に設置。除幕式と神事後、関係者約40人が見守る中、鐘を鳴らして完成を祝いました。

台座には「未来に向かって!!『夢をかなえる鐘』」と、生産者に向けたメッセージが書かれ、モニュメントには高さ18cmの金色の鐘が吊るされています。

同土地改良区の西ヶ谷量太郎理事長は「未来に向け、夢をかなえる農業を目指してほしい」と期待を込めて話していました。



▲ 「夢をかなえる鐘」を揭幕した関係者たち

出荷調整で農福連携

放任農地でアロエ初収穫

放任農地を活用してアロエを栽培する清水区駒越地区の斎藤恭市さんは11月16、17日の両日、JA駒越営農拠点から西伊豆町の業者に約1.5tを出荷しました。品種は食用と薬品に使われる「キダチアロエ」。斎藤さんを含め同区の6人が約1haで栽培し、植栽3年目で初収穫を迎えました。

収穫と出荷調整作業はJAと農福連携している障害者就労支援施設「ナナイロ」に依頼し、約10人の利用者が作業しました。

斎藤さんは「農福連携の力でアロエ栽培を広げ、放任農地解消に役立てたい」と展望を話していました。



▲ アロエの収穫と出荷調整作業に汗を流した施設利用者

JA青壮年部 由比蒲原支部

サツマイモ30kg 動物園に寄付

JA青壮年部由比蒲原支部は11月4日、コロナ禍で休園していた静岡市立日本平動物園を応援しようと、動物の餌としてサツマイモを寄付しました。同支部では例年、農業祭などで販売するためにサツマイモを栽培していましたが、コロナ禍でイベントは中止。食品ロスを出不さないために寄付を決めました。

同支部の望月崇久支部長は「緊急事態宣言で休園と聞き、応援したいと思った。宣言解除されたら、元気な動物を見に来てほしい」と話していました。

今回贈った30kgは、猿やゾウなどの約2日分の餌となるということでした。



▲ サツマイモを日本平動物園へ届けた望月支部長(左)

初取引最高値の両河内茶業会 一番茶へ向けた冬支度「摘心」

両河内茶業会と製茶問屋「和田長治商店」は11月17日、地域の高級茶「高嶺の香(たかねのはな)」の専用茶園で、2021年最後の管理となる摘心作業を行いました。茶業会のメンバーら約15人が参加し、一枝ごとはさみで丁寧に頂部を切り落としました。

摘心は新芽に栄養分を集中させ、高品質な一番茶を育てるための作業で、冬季に樹が休眠する前に行います。専用茶園では「自然仕立て」という手摘みを前提とした栽培方法をとっていて、樹に負担なく育てることで力強い新芽となり、香り高くより豊かな味わいになります。

高嶺の香は、静岡茶市場初取引の機械製造部門で40年以上最高値を付けています。



▲ 茶の枝を丁寧に切り落とす両河内茶業会の会員

JA集出荷センター 本ユズ12月下旬まで7.7t出荷

JA集出荷センターは、11月12日から「本ユズ」の出荷を始め、12月下旬まで昨年産並みの7.7tを京浜市場などへ出荷しました。

本ユズは、抜群の香りの良さと酸味の強さが特徴。皮をそぎ、鍋や茶わん蒸しに入れて香りを楽しみます。コロナ禍で需要が低迷していましたが、2021年産は量販店、業務用ともに回復の傾向。市場出荷をはじめ、加工品用や量販店の売り込みを強化しました。

JA管内では30年ほど前に、温州ミカンの補完作物として導入され、7人が栽培しています。



▲ 目ぞろえ会で出荷規格を確認する生産者たち

清水りんぼかんども園 早生ミカン収穫体験で笑顔

清水りんぼかんども園は11月12日、JA青壮年部有度支部の古澤重則さんのミカン園で、早生ミカンの収穫を楽しみました。

参加したのは、3~5歳児クラスの園児50人。園児たちは清水区有東坂のこども園から歩いて、馬走にあるミカン園に到着。小さな手で器用にはさみを使って色付いたミカンを収穫し、「甘い」「おいしい」と笑顔を見せていました。

収穫したミカンはビニール袋いっぱい詰めて持ち帰り、家族と一緒に自宅でも味わいました。



▲ 早生ミカンの収穫で楽しい思い出を作った園児たち

鮮やかな黄色で上出来 キウイ「東京ゴールド」約5t出荷

JAキウイ部会は11月11日、集出荷センターで、キウイフルーツ「東京ゴールド」の出荷を始めました。本年産は玉の伸びが良く甘味も上々。11月下旬まで、生産者8人が昨年比1.6倍の約5tを出荷しました。

「東京ゴールド」は、先がとがったしずく形で表面の毛が少なく、鮮やかな黄色の果肉と甘味の強さが特徴。市場出荷のほか、買取販売により静岡市内のスーパーでも販売しました。集出荷センターの下平和徳主任は「市場、消費者に喜んでもらえる産地を目指し、主力品種のヘイワードにつなげたい」と話していました。



▲ 真剣なまなざしで出荷基準を確認する生産者たち



遠山由美の レ・シ・ピ こだわり♪



スマホで動画もチェック!



レッドオーレの甘酢あん 〜トロツとしたトマトの甘みが甘酢あんにピッタリ!〜

材 料

2 人 分

- レッドオーレ …… 8個(250g程度)
- 片栗粉 …… 大さじ1程度
- ニンニク …… 1かけ
- ショウガ …… 1かけ
- タマネギ …… 1/2個
- シメジ …… 1株(100g)
- 厚揚げ …… 150g

【甘酢だれ】

- ケチャップ …… 大さじ3
- 酢 …… 大さじ2
- オイスターソース …… 大さじ1
- 酒 …… 大さじ1
- 油 …… 少々

ポイント

片栗粉を使ったとろみづけは、「あん」がダメになってしまったり、硬くなってしまったり、案外難しいもの。今回はレッドオーレの切り口に片栗粉をつけることで、トマトのおいしいゼリー部分を閉じ込めつつ、水溶性いらずで、とろみをつけています。

作 り 方

(1) レッドオーレの準備をする

レッドオーレは横半分に切る。片栗粉を小皿に入れ、レッドオーレの断面を軽く押し付けて片栗粉をつける。片栗粉のついた面を上にして置いておく。

(2) その他の材料の準備をする

ニンニク、ショウガは細かいみじん切り、タマネギはみじん切りにする。シメジは石づきをとりほぐす。厚揚げは熱湯でサッとゆでて油抜きをし、3cm角程度の大きさに切る。Aの調味料を合わせて混ぜておく。

(3) 炒めて仕上げる

- ① 冷たいままのフライパンに油とニンニク、ショウガを入れて点火し、弱火で香りがたつまで加熱する。
- ② タマネギとシメジを加えて中火にし、シメジがしんなりするまで炒める。しんなりしたら弱火にし、フライパンの周囲に厚揚げを並べ、フライパンの中心部にレッドオーレを伏せて並べ入れる。最後の一つを並べてから1分ほど加熱してレッドオーレを温める。

- ③ 中火に上げてレッドオーレの上にAを回しかけ、手早く混ぜ合わせる。さらに、全体をサッと混ぜ合わせたらできあがり!

すくにできる!
もう1品

レッドオーレの
とろろがけ



《材 料》2人分

- レッドオーレ… 6個、自然薯… 200g、薄口しょうゆ… 大さじ1/2、白みそ… 大さじ1、白すりゴマ… 大さじ1、春菊… 2株

作り方は動画も
Check!



忙しい毎日だけど「おいしくて満足感があり、健康の維持・増進にも役立つ一皿」を作りたい…そんなときは「トマト」の調理にひと工夫。油やニンニク・タマネギなどユリ科野菜を加熱した際に発生する、食欲をそそる芳香物質「ジアリルシスルフィド」を合わせれば、「さまざまなる病気の要因」「老化の要因」とされる活性酸素の害を打ち消す抗酸化物質のひとつ「リコピン」の吸収率が上がる上においしさや満足感もアップします。

旬のまとめ知識



レッドオーレ



遠山 由美

野菜ソムリエ上級プロ
NR、食育プロデューサー
他

日本初の「シニア野菜ソムリエ」第1号取得者。野菜や果物の魅力を料理、栄養学、食育など多くの手法で伝え、生産者と消費者の掛け橋として、テレビやラジオなど多方面で活躍中。

このコーナーでは、清水区内の昔懐かしい風景や行事、建物などの古い写真を随時募集します。

珍しい古い写真をお持ちの方は、広報課(TEL367-3221)までぜひご一報ください。



清水の歴史を
貴重な資料で振り返る
[archive-35]



旧庵原村農協山切支所

昭和34年4月撮影 資料：太田喜文氏(清水区山切)

の

どかな農村風景の中にある大きな建物群は庵原村農協山切支所(当時)で、昭和34年(1959)4月に撮影されたものです。建物手前は麦畑、山切川西斜面がミカン園、奥に見えるのが田んぼです。

手前の大きな建物は公会堂で、地区の催しなどに利用されました。時には演芸大会など開かれる交流の場でもありました。その奥の大きな建物はミカンの共選場です。当時の事務所は公会堂右奥の建物の陰になって見えませんが現在は山切自治会館になっています。

ミカン栽培がとても盛んな時代で、共選場も各地にありました。当時、庵原地域は日本一のミカン産地と知られていました。昭和35年(1960)の庵原村史によると庵原地域全体のミカン収量は約1万3000トン。山切地区も1287トンあり、収穫時期になると援農者などが収穫したミカンが共選場に集荷され、支所はとてにぎわっていました。

時代の流れとともに、農家が主体だった山切地区の住民も77戸から約500戸まで増え、サラリーマンなどの一般家庭が増えました。田んぼは住宅地になり、のどかな景色は活気のある地域に変わっていききました。当時と変わらない地形は道路と山切川です。

就活中の大学生・短大生の皆さんへ

JAが分かる！ 「1DAY仕事体験」

実際の仕事現場の見学や先輩職員との懇談など、職場の雰囲気や業務の内容を知っていただける機会です。



日時

2月2日(水)・8日(火) いずれも 9:00~16:00 (予定)

会場

JAしみず本店
(静岡市清水区庵原町1番地)

対象

大学生・短大生
(学部・学科は問いません)

募集人数

各回8人程度

内容

オリエンテーション、JAの概要説明、
職場見学、先輩職員との懇談

申し込み

1月26日(水)まで
下の二次元バーコードより
お申し込みください。▼

お問い合わせ

JAしみず 総務部総務課
TEL.054-367-3201 (平日9:00~16:00)

- 応募者多数の場合、選考をさせていただきます。選考の結果は、JAよりEメールでお知らせします。
- コロナウイルス流行の状況によりオンライン開催等へ変更する場合があります。



庵原生涯学習交流館 まちづくり講演会

庵原の茶業・柑橘業と澤野精一

講師：岡村 龍男 氏

NPO法人歴史資料継承機構 理事／静岡市出身

明治時代、庵原地域をお茶とミカンの産地にした澤野精一氏。袖師出身の澤野氏が庵原の人たちと共に、農業の発展に尽くした様子を紹介します。

日時

2月12日(土)
13:30~15:00

会場

庵原生涯学習交流館

参加費

無 料

募集人数

60人

申し込み

1月12日(水)9:30から、電話
または来館にて受け付けます。

庵原生涯学習交流館 TEL.054-366-7564

新登場

メモリアル清水の家族葬



ご家族に囲まれたやすらぎと
ぬくもりのお葬式をご提案いたします。

基本プラン(プレミアム会員)

- いはらホール[最大20席] 39万6,000円(税込み)
- 日本平ホール[最大30席] 44万円(税込み)

基本プランに含まれるもの

祭壇、会場費、運営スタッフ、棺、骨壺、宗教道具(枕飾り)、受付装具、祭壇供物、火葬手続き、遺体保護費用

ご希望に添った葬儀のために、無料で事前相談を承っています。お見積もりやホールの見学も可能です。

メモリアル清水 TEL:0120-673-101
(平日8:15~17:00)

キウイ「東京ゴールド」杉山さん銀賞



第30回静岡県キウイフルーツ果実品評会が11月25日に開かれ、杉山進さん(清水区草ヶ谷)の「東京ゴールド」が銀賞1席・静岡県経済産業部長賞に選ばれました。県内4JAの生産者から11点が出品され、市場関係者や県職員らが形状や色沢、玉ぞろい、傷などの外観と、食味や肉質などを審査しました。



今年度の「アグリフェスタしみず」は分散開催します



今年度の農業祭「アグリフェスタしみず」は、コロナウイルス感染拡大防止のため、JA支店で開催します。

小島支店	2月19日(土)	9:00~12:00
	静岡市清水区但沼町488-1	
蒲原支店	2月19日(土)	9:00~12:00
	静岡市清水区蒲原小金427	

※商品がなくなり次第、終了となります。
※開催にあたっては感染予防対策を徹底いたしますが、状況により急遽、規模縮小や中止となる場合があります。

ごちそうカントリーに「こん太」が登場

放送日	2月6日(日) 11:40~
番組	静岡第一テレビ「ごちそうカントリー」
テーマ	こん太
出演者	こん太部会長 近藤 喜美雄さん



今月の表紙

ハウス苺部会 副部会長
吉川 和 宏さん
伊公子さん
(静岡市清水区山原)

10aのハウスで「きらび香」を栽培する吉川さん夫婦。JA静岡経済連やメーカーの試験に協力し、天敵を利用した生物的防除やミツバチなど受粉昆虫の導入など、環境に配慮した栽培管理に取り組んでいます。



農機・農具掲示板

探しています!

農業をやめたり、作物を変更した生産者の皆さんが不用になった農機や農具を、必要な方に有効利用していただくための情報提供の場です。掲示板の利用は各営農窓口へお問い合わせください。

譲り受けを希望する方、譲り渡しを希望する方ともに、営農センター・営農拠点にある「農機・農具の掲示板申込書」に必要事項を記入して、提出してください。

●お問い合わせ
JAしみず 購買課 TEL:054-340-0096

掲示板利用の流れ

- 申込** 営農センター・営農拠点
- 締切** 毎月末日
- 掲載** 翌々月の広報誌
- 取引** 当事者間で直接交渉。不成立の場合は、再掲載が可能。

種別	コンテナ	型式	20kg用
価格等	応相談 (@100円以下を希望)	数量	何個でもOK
		連絡先	柴田(清水区草ヶ谷) TEL:090-3442-2539

※コンテナ・防除タンク・動力噴霧器・草刈機・チェーンソー・自走台車・茶刈機・耕運機・田植え機・ポンプ・モノラック・水耕設備・脚立・ポットなど、農機・農具であれば、範囲は特定しません。

編・集・後・記

今月も「しみずの風」をお読みいただき、ありがとうございました。

今年、JAしみず合併50周年の節目の年。本誌座談会の取材で「協同の力」の大切さを改めて感じた。「清水」に脈々と伝えられている大切な風土を今、記録する立場になり、身が引き締まる思い。今年もよろしくお願いたします。(伊藤)

キジトラの子猫を保護して3回目のお正月となった。警戒心が強い反面、典型的な「ソンデレ」タイプ。我が家の一員となっても数か月に1回は脱走するが、ちゃんと戻ってくるのが不思議だ。一緒に日向ぼっこしている時が癒される。(蒲生)

年を重ねるにつれ、体重計に乗る回数も減り、真実から目を逸らすようになった。久しぶりに袖を通した着物は、そんな私も優しく包みこんでくれた。敷居が高いと思われがちだが、流行にも体型にも左右されず、コスパは最高!(杉山さ)

「過去と他人は変えることが出来ない」が「自分と未来は変えることが可能」という格言を聞くことがある。安易に年輪を重ねてきてしまった私にはとても重たい言葉だが、お屠蘇をいただきながら自分と未来を変えていきたい。(杉山滋)

綺麗な部屋で新年を迎えようと自室のふすまを張替えた。水にぬらすだけで簡単に貼れるふすま紙を購入。紙が丸くなるクセをとるのに2時間、1枚張り替えるのに1時間もかかってしまったが、満足の出来となりました。(見宮)

草薙神社

くさなぎじんしゃ



約1900年の歴史を誇る草薙神社には「日本書紀」や「古事記」に登場する英雄・日本武尊(やまとたけるのみこと)の伝説が残っています。日本武尊が東国の平定に向かう途中、この地で山賊の火攻めに遭い、宝剣で草をなぎ払って窮地を逃れたことから、その地名がついたとされます。宝剣は後に「草薙の剣」とも呼ばれ、日本武尊の父・景行天皇が御霊体として建立したのが草薙神社だと伝わっています。

新年には初詣に訪れる人も多く、秋季例大祭に合わせて打ち上げられる「草薙大龍勢」は県無形民俗文化財に指定されています。

概要
所在地: 静岡市清水区草薙349 駐車場: 有(6台)

アクセス
<p>徒歩 JR草薙駅より徒歩20分</p> <p>しずてつバス 三保草薙線草薙団地行き 「草薙駅南口」より 「草薙神社前」下車</p>



鳥居をくぐった左手には、日本武尊の石像が建てられています。

